

有限会社一の谷

業種	宿泊・飲食サービス業	事業所所在地	愛知県豊田市	資本金	20,000千円
				従業員数	10名

 	被承継者（左）		
	山岡 彌	93歳	※承継時
	承継者（右）		
	荻山 俊一	36歳	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係		
2016年12月	その他の親族（孫娘婿）		
承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題		
昭和40年に創業して以来、中部地方有数の観光地「香嵐渓」にて、奥三河の旬の食材を使用した料理（夏場は鮎料理・冬場はジビエ鍋料理）を提供する和風料亭を営む。川面を見渡す100畳の和室をも備えた大規模な料亭であるため、観光客の食事から団体客の会食、宴会や法事などの会席料理などに幅広い用途で利用されている。	・人材の獲得や維持	高齢者人口の増加に伴う受け入れ態勢（和式トイレやテーブル席など）に改善の余地が残されており、主要顧客である高齢者が来店しづらい店舗設計並びに運営となっていたので、来客数の減少が止まらず、それに伴い売上も減少していた。また、地元の豊田市が力を入れているインバウンド需要に対しても、同様にテーブル席導入や洋式トイレへの改善が喫緊の課題となっていた。	

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 3年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
3年前に18年間務めた会社の将来性に見切りをつけて退職したタイミングで飲食業の勉強のために手伝いに入ったところ、承継者が決定しておらず事業承継問題に直面した。当時は決算書の見方もわからず、経営の勉強をしていくうちに、事業経営に興味が出てきたのが初めの契機となった。	事業承継時に93歳と高齢であったため、長い時間をかけた話し合いはなかなかできませんでしたが、社長代行のご子息も含めて、傾きつつある事業をどのように立て直して行くのかなどを話し合いました。	跡継ぎが決まっておらず、社長ご自身の体力・気力も限界に達していた事。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	被承継者に当たる社長のご子息が7年前から、高齢の社長の代行として経営を行っていたが、本人は社長になる気が全く無かったので、事業承継時に特に大きな問題はなかった。	事業承継時に会社の経営状態が債務超過になっており、今後、どのように資金繰りをしていけば改善して行くのかなど、経営に関する知識が圧倒的に不足しており、とても不安でした。

これに一番苦労した！

事業承継時に13名の親族外の株主が相続により債権と株式を持っており、各相続人に株式譲渡と債務放棄の交渉をして回らなければならなかった事、また、運転資金の確保や金融機関の借入金金の交渉、地主との家賃交渉など、今までに経験した事のない事ばかりで、とても苦労しました。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
税理士・税理士法人	事業承継の実施にあたり事業内容のアドバイスを受け事業計画に反映させた。
いつから相談？	
承継実行の 1年前	
相談のきっかけ	
事業承継のために承継者または被承継者自身がアプローチした	

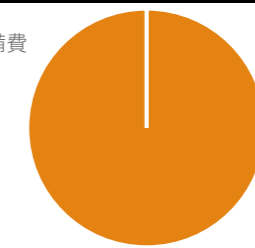
経営革新等に係る取組の標題

高齢化社会とインバウンド需要を担う景勝地飲食店のバリアフリー計画

経営革新等に係る取組の内容	その他の新たな事業活動
---------------	-------------

- 当社が営む観光地の飲食店舗は、経済的・時間的余裕のあるシニア層や訪日外国人の増加により年々右肩上がりとなっている。しかし、現状では顧客が望むような設備が充実しておらず、需要高にありながら多くの機会を喪失していた。特に、100年以上前の屋敷を移設して使用している店舗は、至る所に段差があり、高齢者や車椅子でご来店のお客様には不便な造りとなっていた。
- そこで、来客層の高齢化やインバウンド観光客への対応策として、店舗改装を計画した。具体的には、座布団席をイス・テーブル席（120席）に変更、車椅子のままでも直接入店できるように簡易の移動式スロープを導入して、階段や段差に手摺りを設置した。また、狭く古い和式トイレを広めのスペースを確保した洋式トイレに変更し、小さなお子様連れのお客様用におむつ替えシートも設置した。こうした店舗のバリアフリー化により、お客さまが安心して来店できる店作りを目指した。
- また、「宿泊はできないのか？」とのご要望を多数頂くことがあったため、令和元年10月21日付けで旅館業営業許可を取得して、トレーラーハウスを利用したグランピング事業を展開する。その他、施設の空き部屋を利用して、骨董品・古美術品の販売も行う。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
観光地として有名な香嵐渓ですが一般的に秋の紅葉シーズンしか観光客が訪れないため、グランピングを利用して新緑や夏場の川遊びなど紅葉シーズン以外でも楽しめる場所という事を地元の観光協会や観光サイトなどの協力を得て、SNSなどを通じて発信できればと思っています。	<p>■設備費</p>  <p>経費の主な使い道</p> <p>設備費（店舗バリアフリー改修工事費、トイレ改修費等）</p>

認定経営革新等支援機関の名称： 翔陽税理士法人

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
---	---	---	----------------------------------

制度内容の説明を受けたのち、事業計画の立案や工事業者の紹介などのサポートを受けた。

今後に向けて～次の目標

2019年から2022年に向けて	グランピング事業を成功させて、営業利益ベースでの黒字化を目指す。
営業利益 10 %UP	

これから事業承継に取り組む事業者の方へ

被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
死亡の為、コメント無し。	事業承継に直面されている方は、承継するべきかしないべきか迷われる事が多いと思いますが、現経営者が亡くなった際は、誰が承継するのかその時点で決定しなければいけません。承継を迷っている間も時間だけが過ぎて行き、解決の糸口がどんどん少なくなっていくため、近年では日本政府も危機意識を持って事業承継税制や事業承継補助金などを制定したりして環境面での整備を行い、事業承継に取り組む易くなっておりますので、できるだけ早く事業承継に取り組むことをお勧めします。